

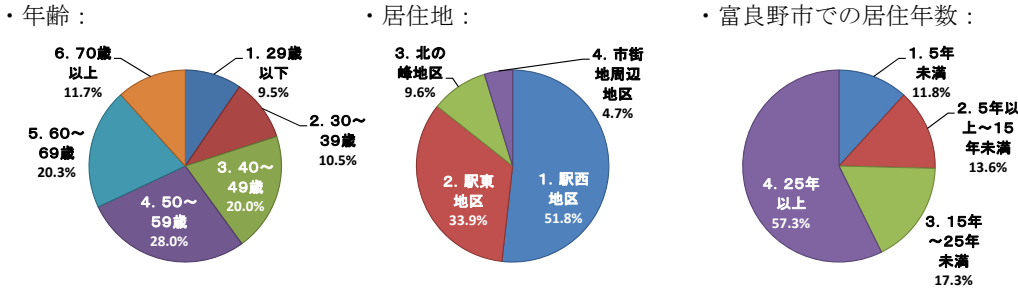
【調査の概要】

・年齢や居住地のバランスを考慮しつつ、都市計画区域内に居住する18歳以上の市民約1,000人を無作為抽出し、郵送により配布・回収を行い、調査を実施しました。

【調査時期及び回収率】

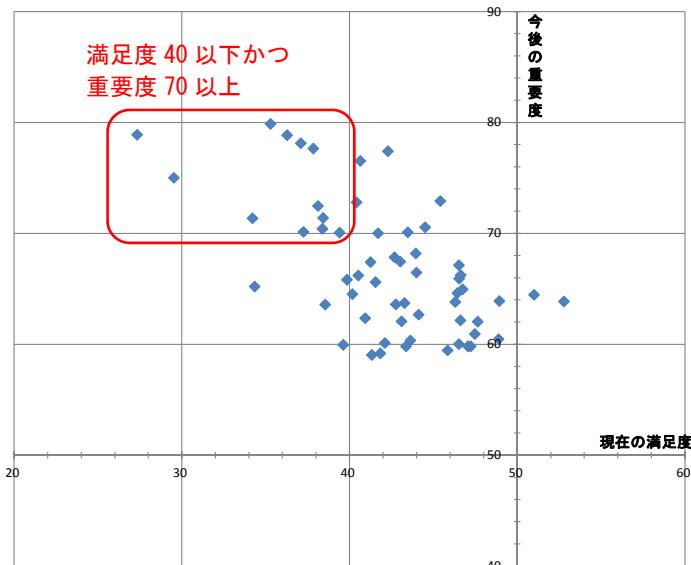
・調査時期：令和元年6月11日（発送） ・回収率：32.2%（回収326件）

【回答者の属性】



【まちづくりの満足度と重要度】

・右記の58項目を5段階評価で回答してもらい、評価毎の回答数に100点、75点、50点、25点、0点の重みを付け、加重平均により「現在の満足度」と「今後の重要度」を算出しました。
 ・各項目の結果を横断的に比較した中で、「現在の満足度」が40以下かつ「今後の重要度」が70以上の項目を「不満かつ重要」として抽出すると12項目が該当しており、これらは本マスタープランの改訂にあたって、優先的に考慮すべき事項と考えられます。



設問	評価項目	満足度	重要度
Q 5. 土地利用及び市街地整備に関すること	1. 主要な都市機能の集約化	46.55	65.90
	2. まちなか居住による賑わいづくり	43.97	68.17
	3. 国道沿道への利便施設の立地誘導	44.15	62.66
	4. 中心市街地の再整備	46.54	67.12
	5. 郊外部の無秩序な開発の抑制	46.66	66.21
	6. リゾート関連施設の立地誘導	43.12	62.06
	7. 空き家、空き地の活用	29.55	75.00
	8. 工業団地の拡充等による企業誘致	34.37	65.19
	9. 観光施設と市街地整備の連携強化	44.52	70.53
	10. 定住促進のための住宅地供給	37.26	70.11
Q 6. 交通体系の整備に関すること	1. 都市間を結ぶ広域的な道路の整備	46.76	64.94
	2. 身近な生活道路の維持補修	38.40	70.40
	3. 市街地内の幹線道路の充実	47.25	59.81
	4. 観光客にもわかりやすい案内表示	41.27	67.41
	5. 歩道のバリアフリー化	38.44	71.38
	6. 経済性を重視した道路の老朽化対策	42.70	67.83
	7. 自動車がなくとも暮らしやすい公共交通の充実	27.35	78.88
	8. 駐車場の適正配置	39.86	65.81
	9. 冬期の除雪や凍結防止の対応	36.29	78.84
	10. まち歩きや自転車観光のための施設整備	38.56	63.57
Q 7. 自然環境及び公園緑地の整備に関すること	1. 市街地周辺の自然環境や田園環境の保全	52.80	63.84
	2. 生態系を踏まえた多自然型河川への改修	47.66	62.03
	3. 水とふれ合える河川や公園の整備	40.19	64.51
	4. 経済性を重視した公園施設の老朽化対策	41.56	65.59
	5. 公園や公共施設敷地への緑化推進	47.48	60.91
	6. 民間活力による公園の利活用の促進	41.35	59.03
	7. 地域のニーズを反映した公園の再整備	40.95	62.34
	8. 街路樹の適正管理による市街地の緑化	46.54	60.00
	9. 市民による公園の維持や花のまちづくり	48.91	60.46
	10. 自然環境と調和した観光開発	46.32	63.80
Q 8. 都市防災に関すること	1. 災害危険箇所における開発の抑制	45.43	72.90
	2. 大雨に備えた河川の減災対策	42.31	77.40
	3. 公共建築物やライフラインの耐震化	40.65	76.52
	4. 住宅や民間建築物の安全性向上	43.49	70.08
	5. 防災機能を強化した公園施設整備	39.42	70.05
	6. 緑化による密集市街地の延焼防止	43.29	63.69
	7. 主要施設の停電時対策	35.30	79.86
	8. 減災につながる地域コミュニティの形成	38.14	72.46
	9. 防災情報の周知と共有化	37.86	77.63
Q 9. その他の都市施設の整備に関すること	1. 主要建築物のバリアフリー化	40.44	72.78
	2. 高齢者のための施設整備と充実	41.72	70.00
	3. 子育てのための施設整備と充実	37.11	78.11
	4. 公営住宅の計画的な建替えや改修	47.08	59.81
	5. 水洗化の普及と下水道施設の整備	51.02	64.44
	6. 建替え等に合わせた公共建築物の複合化	43.65	60.34
	7. 長期的な公共建築物の適正配置	42.78	63.58
	8. グリーンエネルギーの活用促進	43.04	67.44
	9. 経済性を重視した公共建築物の老朽化対策	40.54	66.19
	10. 幹線道路沿道の無電柱化	39.64	59.93
Q10. 都市景観の形成に関すること	1. 中心市街地の景観の向上	46.45	64.61
	2. 観光施設周辺の景観の向上	48.95	63.88
	3. 国道沿道の景観の向上	46.62	62.13
	4. リゾート開発に係る規制と適正誘導	44.01	66.45
	5. 屋外広告物への規制や指導	45.87	59.45
	6. 高台など眺望ポイントの整備充実	43.39	59.80
	7. 案内看板などのデザイン化	42.13	60.10
	8. 工場や資材置き場などの景観への配慮	41.85	59.17
	9. 空き家、廃屋などへの指導や除却対応	34.22	71.35
	10. 幹線道路沿道の無電柱化	39.64	59.93

赤字は「現在の満足度」40以下かつ「今後の重要度」70以上のもの

【満足度と重要度の各設問の結果について】

<p>Q5. 土地利用及び市街地整備に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 10項目中「空き家、空き地の利活用」と「定住促進のための住宅地供給」の2項目が、満足度40以下かつ重要度70以上となっています。 「空き家、空き地」が市街地内に多く存在し、長年放置されている空き家への解体等の対応や、使える空き家については中古住宅として活用すべきとの意見がみられます。 富良野市は賃貸物件の家賃が高く、収入に応じた手ごろな物件が不足しており、定住や移住のためにも適切な住宅環境を望む意見がみられます。 この他、満足度はさほど低くありませんが、「観光施設と市街地整備の連携強化」の重要度が70を超えており、特に富良野駅周辺の活性化を求める意見や、観光だけでなく住民の暮らしも考えるべきという意見がみられます。 	<p>Q6. 交通体系の整備に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 10項目中「身近な生活道路の維持補修」、「歩道のバリアフリー化」、「自動車がなくても暮らしやすい公共交通の充実」、「冬の除雪や凍結防止の対応」の4項目が、満足度40以下かつ重要度70以上となっています。 特に「公共交通の充実」は、全58項目中で満足度が最低となっており、バスの便数が少ないことへの不満や、今後の高齢化や免許返納後の足となる公共交通機関が重要との意見がみられます。 「除雪等の対応」は、除雪後でもすれ違いが困難であることや、交差点の見通しが利かないことへの不満、住民の雪出しへの指導が必要との意見がみられます。 この他、[市街地内の幹線道路の充実]の重要度が低い一方で、「生活道路の維持補修」の重要度が高いことから、幹線系の充実よりも生活道路の改善を求める傾向がうかがえます。 	<p>Q7. 自然環境及び公園緑地の整備に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 10項目中、満足度40以下かつ重要度70以上の項目は該当なく、他の設問に比べ高評価を得ていると考えられます。 その中でも「市街地周辺の自然環境や田園環境の保全」や「市民による公園の維持や花のまちづくり」は満足度が高く、これまでの取り組みの成果が現れていると言えます。 一方で、「水とふれ合える河川や公園の整備」や「経済性を重視した公園施設の老朽化対策」、「地域のニーズを反映した公園の再整備」は、比較的満足度が低く、今後の検討が求められています。 「街路樹の適正管理による市街地の緑化」については、除雪や見通しの観点で街路樹を邪魔とする意見や、管理をしっかりすることでまちの魅力向上を望む意見もあり、感じ方に差がみられます。
<p>Q8. 都市防災に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 9項目中「防災機能を強化した公園施設整備」、「主要施設の停電時対策」、「減災につながる地域コミュニティの形成」、「防災情報の周知と共有化」の4項目が、満足度40以下かつ重要度70以上となっています。 特に「施設の停電時対策」は全58項目中で重要度が最高となっており、「防災情報の周知」とともに平成30年胆振東部地震による北海道全域の停電を踏まえた回答と考えられます。 この他、満足度はさほど低くありませんが、「災害危険箇所における開発の抑制」、「大雨に備えた河川の減災対策」、「公共建築物やライフラインの耐震化」、「住宅や民間建築物の安全性向上」の重要度が70を超えています。 9項目のうち8項目の重要度が70を超える状況から、都市防災に関する市民の関心の高さがうかがえます。 	<p>Q9. その他の都市施設の整備に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 9項目中「子育てのための施設整備と充実」の1項目が、満足度40以下かつ重要度70以上となっています。 就学前の幼児が曜日に関係なく利用できる「子育て施設の充実」や雨の日にも子どもが遊べる施設を求める意見がみられます。 この他、満足度はさほど低くありませんが、「主要建築物のバリアフリー化」や「高齢者のための施設整備と充実」の重要度が70を超えており、これからの時代を見据えた建物のバリアフリー化や、高齢者が多くなることを踏まえて独居老人が生活しやすい住まいや入居施設を求める意見がみられます。 	<p>Q10. 都市景観の形成に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 10項目中「空き家、廃屋などへの指導や除却対応」の1項目が、満足度40以下かつ重要度70以上となっています。 Q5の結果と同様に「空き家、廃屋」の関係を問題ととらえており、今後増加していくことを踏まえて、特にまちなかの空き家や空き店舗、主要道路沿いの古い建物への対応を求める意見がみられます。 この他、比較的重要度が高い項目は少ない状況ですが、「リゾート開発に係る規制と適正誘導」が若干高めの傾向にあり、富良野市を印象づけるための景観のあり方や、海外資本による急速な開発を懸念する意見がみられます。